

# 特集「社会に浸透していくコンピュータセキュリティ技術」 の編集にあたって

満保 雅浩<sup>1</sup>

インターネットに代表される ICT は日々の生活に欠かすことのできないものとなってきており、社会に広く深く浸透している。報道等にも大きく取り上げられた誤認逮捕事件や各種の情報漏洩事件などに見られるように、すでに ICT はセキュリティ技術なしには議論できないといっても過言ではなくなっている。

たとえば日本年金機構からの個人情報の流出では、業務に関する件名を使った複数の標的型メールが攻撃の糸口であったと報道されている。標的内で検出できない不正プログラムを送り込むことにより、遠隔操作および個人情報の外部への送信が行われた。加えて、物理的に異なるネットワーク上に存在したはずの個人情報が運用の都合でセキュリティポリシーに反してアクセスしやすい場所に置かれていたとの報道もなされている。情報システムにおけるセキュリティの技術的な課題と管理運用上の課題、さらに人間行動学や社会科学にまで及ぶ課題を提起した形となった。

一方、教育分野の企業からの大量顧客データの流出では、スマートフォンがメディアデバイスとして認識されたという技術要因があったものの、業務委託を受けた派遣社員が企業内での作業中に犯行に及んでおり、情報の管理運用における人的な要素を含むセキュリティ対策の必要性を再認識させた。

このように、人々の生活に直結し大きな影響を与えつつある電子マネー、組み込みシステム、スマートフォンを含む各種 ICT の普及は、同時に、これらを支えるコンピュータセキュリティ技術が身近に必要となり、社会全体に浸透していくことを意味する。

本特集号は、このように社会に浸透していくコンピュータセキュリティ技術について、技術的な課題や管理運用上の課題さらには人間行動学や社会科学にまで及ぶ課題を広く認識し、それらに対する解決策を把握することにより、今後の技術開発や管理運用に役立てることを目指して企画したものである。

さて、今回は 62 件の論文が投稿され、そのうちの英文論文 11 件を含む 30 件が採択された。採択率は約 48%で

ある。投稿時の申請に基づく内訳は、コンピュータネットワーク 13 件（コンピュータウイルス 6 件など）、システムセキュリティ 10 件（Web・メールセキュリティ 3 件、OS・ミドルウェア・仮想化 3 件など）、セキュリティと社会 6 件（その他 4 件、プライバシー保護 2 件）と続いている。従来、暗号や署名などのセキュリティ基盤技術の論文が多かったが、コンピュータネットワークやシステム、さらには、社会との係わりを議論する論文が増えており、コンピュータセキュリティ技術は、要素となる基盤技術としてだけでなく、システムとともに社会に浸透していく段階に入っていることが見て取れる。

本特集号は、国際会議 IWSEC2014 での招待講演である Reihaneh Safavi-Naini 教授らの A Model for Adversarial Wiretap Channels and its Applications を収録している。掲載に同意いただいた同教授と共著者の Pengwei Wang 氏に感謝する。

特集号の編集にあたり、多数かつ多様な論文の査読と各種編集作業を経て出版までたどりつくことができたのは、査読者や編集委員ならびに学会関係者の皆様の多大なるご尽力のお陰であり、厚く御礼申し上げたい。特に、大久保隆夫幹事（情報セキュリティ大学）、越前 功幹事（国立情報学研究所）には、取りまとめの中心として、細部にわたり、献身的に運営いただいた。心より感謝申し上げたい。

「社会に浸透していくコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長  
満保雅浩（金沢大学）
- 幹事  
大久保隆夫（情報セキュリティ大学）、越前 功（国立情報学研究所）
- 編集委員  
岩村恵市（東京理科大学）、大東俊博（広島大学）、岡本栄司（筑波大学）、岡本 健（筑波技術大学）、加藤岳久（情報処理推進機構）、菊池浩明（明治大学）、齋藤孝道（明治大学）、佐々木良一（東京電機大学）、

<sup>1</sup> 金沢大学  
Kanazawa University, Kanazawa, Ishikawa 920-1192, Japan

須賀祐治 (IIJ), 鈴木幸太郎 (NTT), 高木 剛 (九州大学), 高倉弘喜 (名古屋大学), 田中 清 (信州大学), 千田浩司 (NTT), 手塚 悟 (東京工科大学), 寺田真敏 (日立製作所), 寺田雅之 (NTT ドコモ), 土井洋 (情報セキュリティ大学), 鳥居 悟 (富士通研究所), 中西 透 (広島大学), 西垣正勝 (静岡大学), 野島良 (情報通信研究機構), 朴 美娘 (神奈川工科大学), 本郷節之 (北海道工業大学), 松浦幹太 (東京大学), 松中隆志 (KDDI 研究所), 宮地充子 (北陸先端大学), 村山優子 (岩手県立大学), 毛利公一 (立命館大学), 山内利宏 (岡山大学), 吉岡克成 (横浜国立大学), 吉浦 裕 (電気通信大学), 渡邊裕治 (日本 IBM)